

Oracle9i Warehouse Builder

リリース・ノート

リリース 9.2

2003 年 11 月

部品番号 : J08104-01

原典情報 : Oracle9i Warehouse Builder Release Notes Release 9.2 (B10999-01)

目次

はじめに	3
リリース・ノートの構成について	3
日本語環境での使用上の注意	3
全体	3
Oracle9i Warehouse Builder 9.2.0.3 パッチ	3
Design Browser の UI が未翻訳 (Bug#2844894)	3
オンライン・ヘルプについて	3
マルチバイト文字を含む可変長フラット・ファイルのサンプルについて (Bug#3066632)	3
プロセス・フロー・エディタのメール・アクティビティの body と subject で マルチバイト文字が文字化け (Bug#3069200)	4
タイトルにマルチバイトを含むオブジェクトのアップグレード・スクリプトの作成について (Bug#3100554)	4
HP-UX PA-RISC でアップグレード・スクリプトが生成できない (Bug#3102139)	4
Design Repository にログインできない (Bug#3085126)	4
OLAP Bridge からマテリアライズド・ビューを直接作成できない (Bug#2983483)	4
ターゲット・モジュールの作成ステップについて (Bug#3011117)	4
ソース・モジュールのプロパティについて (Bug#3125269)	4
アップグレードの実行について (Bug#3148061)	5
ドキュメント内の誤り	5
Oracle9i Warehouse Builder インストレーションおよび構成ガイド	5
Oracle9i Warehouse Builder トランスフォーメーション・ガイド	5
プラットフォームに関する注意事項	6
要件	6
Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) をご使用の場合	6
Oracle9i Database Release 1 (9.0.1) をご使用の場合	7
Oracle8i R8.1.7 をご使用の場合	7
マルチ・ユーザーに関する注意事項	7
新機能	8
関連コミット	8
データベース接続	8
ダイレクト・パーティション交換ロード	8
フラット・ファイル・サポートの拡張	8
マッピング・デバッグ	9
Match-Merge ウィザードと演算子エディタ	9
メタデータ変更管理	9

ORACLE[®]

Oracle は、Oracle Corporation の登録商標です。Oracle9i および SQL*Plus は、Oracle Corporation の商標または登録商標です。その他の名称は、各所有者の商標です。

Copyright © 2003 Oracle Corporation.
All Rights Reserved.

複数の Name and Address ソフトウェア・プロバイダ	9
Name and Address ウィザードと演算子エディタ	9
Public API	9
RAC のサポート	10
セキュリティ	10
サード・パーティの設計ツールに対する MITI メタデータ・ブリッジ	10
新機能における既知の制限事項	10
関連コミット	10
フラット・ファイル・サポートの拡張	10
マッピング・デバッガ	11
複数の Name and Address ソフトウェア・プロバイダ	12
セキュリティ	12
既存の機能における既知の制限事項	12
ブリッジ	12
クライアント	13
データベース・リンク	13
デプロイメント・マネージャ	14
フラット・ファイルのソースとターゲット	15
マッピングの設計と構成	15
MDL インポートと MDL エクスポート	19
Oracle Enterprise Manager	20
OMB Plus	20
プロセス・フロー	20
Runtime Audit Browser	20
SQL*Loader	21
アップグレード	21
Oracle9i Warehouse Builder Browser	21
XML ツールキット	22
ドキュメントの正誤表	22
解決済みの問題	22

このリリース・ノートでは、Oracle9i Warehouse Builder リリース 9.2 に関して次の情報を提供します。

- はじめに
- 日本語環境での使用上の注意
- プラットフォームに関する注意事項
- 要件
- マルチ・ユーザーに関する注意事項
- 新機能
- 新機能における既知の制限事項
- 既存の機能における既知の制限事項
- ドキュメントの正誤表
- 解決済みの問題

はじめに

リリース・ノートの構成について

このリリース・ノートの「[プラットフォームに関する注意事項](#)」以降は英語リリース・ノートの翻訳版です。日本語環境固有の情報については、「[日本語環境での使用上の注意](#)」を参照してください。

日本語環境での使用上の注意

全体

本リリースでは次の機能は日本ではサポートされません。

- Oracle Transparent Gateway
- SAP データソース
- ODBC データソース
- Name and Address 演算子
- OLAP Server への Bridge 機能

Oracle9i Warehouse Builder 9.2.0.3 パッチ

Oracle9i Warehouse Builder 9.2.0.3 パッチが、Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) Update CD に収録されています。パッチのインストール方法は Update CD を参照してください。

Design Browser の UI が未翻訳 (Bug#2844894)

Oracle9i Warehouse Builder 9.2 では、Design Browser の UI が翻訳されていません。

オンライン・ヘルプについて

Oracle9i Warehouse Builder のオンライン・ヘルプは、現在日本語化されていません。

マルチバイト文字を含む可変長フラット・ファイルのサンプルについて (Bug#3066632)

フラット・ファイル・サンプル・ウィザードはマルチバイト文字を含む可変長フラット・ファイルをサンプリングする際に、マルチバイト文字 1 文字の長さを 1 としてカウントします。これによってウィザードが認識する長さ与实际が異なり、データロード時にエラーが発生する可能性があります。

対応策

フラット・ファイル・サンプル・ウィザード上、または「フラット・ファイルのプロパティ」から正しい値に修正します。

プロセス・フロー・エディタのメール・アクティビティの body と subject でマルチバイト文字が文字化け (Bug#3069200)

プロセス・フロー・エディタのメール・アクティビティの body または subject にマルチバイト文字を使用できません。

タイトルにマルチバイトを含むオブジェクトのアップグレード・スクリプトの作成について (Bug#3100554)

オブジェクト名、もしくは列名にマルチバイト文字を含む場合、アップグレード・スクリプトは生成されません。

対応策

オブジェクトのアップグレードを手動で行い、その後メタデータを Design Repository に再インポートします。

HP-UX PA-RISC でアップグレード・スクリプトが生成できない (Bug#3102139)

HP-UX PA-RISC 環境の Runtime Platform Service を使用した場合、アップグレード・スクリプトは生成されません。

対応策

オブジェクトのアップグレードを手動で行い、その後メタデータを Design Repository に再インポートします。

Design Repository にログインできない (Bug#3085126)

Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) に Patch Set Release 9.2.0.3 もしくは 9.2.0.4 適用後に作成された Design Repository に対して、Design Client からログインできないという問題があります。

対応策

Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) に system ユーザーとしてログインし、次の SQL 文を実行してください。

```
truncate table dbms_lock_allocated;
```

OLAP Bridge からマテリアライズド・ビューを直接作成できない (Bug#2983483)

OLAP Bridge からマテリアライズド・ビューを直接作成することができません。

対応策

SQL スクリプトとして生成後、そのスクリプトを手動で実行することで作成できます。

ターゲット・モジュールの作成ステップについて (Bug#3011117)

新規モジュール・ウィザードより、ターゲット・モジュールを作成する途中で、『Oracle9i Warehouse Builder ユーザーズ・ガイド』に記述のない、「新規モジュール: ウィザード: ターゲット」というページが表示されます。

対応策

「新規モジュール: ウィザード: ターゲット」ページでは、何も変更せず「次へ」ボタンをクリックします。

ソース・モジュールのプロパティについて (Bug#3125269)

ソース・モジュールのシステム・タイプを Oracle8i/9i に指定して作成した後、プロパティからシステム・タイプを確認すると 8.0 と表示されます。このため、このモジュールの接続先を変更する際にエラーが起こる可能性があります。

対応策

プロパティのシステム・タイプをその都度手動で変更します。

アップグレードの実行について (Bug#3148061)

デプロイメント・マネージャよりオブジェクトのアップグレードを実行すると、続いて表示される「ランタイム・リポジトリの配布結果」ダイアログがグレー表示の状態のままでハングします。

対応策

ターゲット・データベースでのアップグレード処理の実行には問題ありませんので、ハング状態となったダイアログを閉じてください。

ドキュメント内の誤り

Oracle9i Warehouse Builder インストレーションおよび構成ガイド

『Oracle9i Warehouse Builder インストレーションおよび構成ガイド』には次の内容が記載されていません。

『Oracle9i Warehouse Builder インストレーションおよび構成ガイド』をお読みになる場合には、次の内容もご確認ください。

B.1.5 Oracle Internet Developer Suite 1.0 の OEM の設定

Oracle Workflow を使用している場合でも、OEM を使用せずにランタイム・プラットフォームで ETL 処理を行うことができます。しかし、OEM を使用して PL/SQL ETL 処理を行うために、Oracle9i Warehouse Builder は、Oracle Internet Developer Suite で OEM ジョブを使用するよう構成する SQL スクリプトを提供しています。

このスクリプトは <HOME>/owb/rtp/sql/set_oem_home.sql にあります。Oracle9i Warehouse Builder のインストール後、Runtime Repository に直接接続し、構成タスクとしてこのスクリプトを 1 回実行します。その後、新しい OEM リポジトリをインストールし、システムを再構成する必要がある場合は、再実行します。

このスクリプトのパラメータは次のとおりです。

- **P1:** 構成する Oracle Enterprise Manager のリリース (9.2 または 9.0.1)。
- **P2:** サーバー側ランタイム・インストールを含む、NT または UNIX オペレーティング・システム (Windows システムには NT を、UNIX システムには UNIX を使用)。
- **P3:** サーバー側ランタイム・ホーム・ディレクトリ。
- **P4:** OEM jar があるデータベース・ホーム・ディレクトリ。Oracle ディレクトリとして有効にするには、サーバー側ランタイム・ホームと同じマシン上にこのディレクトリを置く必要があります。つまり、マップされたドライブには置けません。

たとえば、D:¥MyRuntimeHome にランタイムを構成し、Windows システムにある D:¥My92DBHome で Oracle Enterprise Manager リリース 9.2 の jar を使用するには、次のように入力します。

```
@set_oem_home.sql 9.2 NT D:¥MyRuntimeHome D:¥My92DBHome
```

Runtime Repository ごとに、Oracle Enterprise Manager リリース 9.0.1 とリリース 9.2 に対して 1 回ずつ設定できます。

Oracle9i Warehouse Builder トランスフォーメーション・ガイド

『Oracle9i Warehouse Builder トランスフォーメーション・ガイド』の第 3 章「SQL 変換」において、次の事前定義済ファンクションの解説が掲載されていません。

Character カテゴリ

- NLSSORT
- NLS_INITCAP
- NLS_LOWER
- NLS_UPPER
- SUBSTRB

Conversion カテゴリ

- NLS_CHARSET_DECL_LEN

- NLS_CHARSET_ID
- NLS_CHARSET_NAME

Date カテゴリ

- SYSDATE

Numeric カテゴリ

- ACOS
- ASIN
- ATAN
- ATAN2
- COS
- COSH
- LN
- LOG
- SIN
- SINH
- TAN
- TANH

OLAP カテゴリ

- WB_OLAP_LOAD_CUBE
- WB_OLAP_LOAD_DIMENSION
- WB_OLAP_LOAD_DIMENSION_GENUK

上記のファンクションのうち、OLAP カテゴリのファンクションの解説は、『Oracle9i Warehouse Builder ユーザーズ・ガイド』より参照できます。その他のファンクションの解説は、『Oracle9i SQL リファレンス』より参照できます。

プラットフォームに関する注意事項

以前のリリースでは、Solaris と Windows プラットフォーム (NT、2000、XP) で Oracle9i Warehouse Builder を使用していました。このリリースからは、Solaris、Linux、HP-UX、AIX でも Oracle9i Warehouse Builder を使用できるようになります。

各プラットフォームのシステム要件は次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/products/system/index.html>

OLAP Bridge の機能は、Windows プラットフォームでのみ有効になり、Name and Address Server は、Windows と Solaris プラットフォームでのみ使用できることに注意してください。

要件

この項では、Oracle9i Warehouse Builder の動作が保証された Oracle Database のバージョンを紹介しません。システム要件の最新情報は次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/products/system/index.html>

Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) をご使用の場合

データベース : Oracle9i Database Enterprise Edition Release 2 (9.2.0)。このバージョンのデータベースでは、Oracle R7.3 のソースはサポートされません。Oracle9i Warehouse Builder は、Oracle9i Database Standard Edition に対して動作が保証されていません。

アプリケーション・サーバー : Oracle9i Application Server Release 2 (オプション)。

Oracle Enterprise Manager: Oracle Enterprise Manager R9.2。

Oracle9i Database Release 1 (9.0.1) をご使用の場合

データベース : Oracle9i Database Enterprise Edition Release 1 (9.0.1.3)。Oracle9i Warehouse Builder は、Oracle9i Database Standard Edition に対して動作が保証されていません。

アプリケーション・サーバー : Oracle9i Application Server Release 2 (オプション)。

Oracle Enterprise Manager: Oracle Enterprise Manager R9.0.1。

Oracle9i Warehouse Builder の新機能の一部では、Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) のデータベースの機能が使用されます。次の機能は、Oracle9i Database Release 1 (9.0.1) 以下では使用できません。

- 『Oracle9i Warehouse Builder トランスフォーメーション・ガイド』で説明されているような、緩やかに変化する次元は、サポートされません。
- スナップショットはサポートされますが、パフォーマンス上の問題が発生することがあります。

Oracle8i R8.1.7 をご使用の場合

データベース : Oracle8i R8.1.7 Enterprise Edition。

Oracle9i Warehouse Builder の新機能の一部では、Oracle9i Database の機能が使用されます。次の機能は、Oracle8i 以下では使用できません。

- 『Oracle9i Warehouse Builder トランスフォーメーション・ガイド』で説明されているような、緩やかに変化する次元は、サポートされません。
- スナップショットはサポートされますが、パフォーマンス上の問題が発生することがあります。
- プロセス・フローの配布。
- ピボット演算子。
- アンピボット演算子。
- 結合演算子を使用した完全外部結合。
- マルチテーブル・インサート。
- テーブル・ファンクション。
- PL/SQL および SQL コードでの CASE ファンクションの使用。
- 外部表。

マルチ・ユーザーに関する注意事項

次の使用例では、マルチ・ユーザーに関する現在の機能について説明します。

使用例 1

デプロイメント・マネージャは、生成が実行されてから、コミットを実行します。これによってオブジェクトのロックが解除されます。したがって、オブジェクトは OMB Plus で変更できます。デプロイメント・マネージャがコンソールで起動されると、このコミットは実行されないで、オブジェクトは、コミットが手動で実行されるまで、ロックされたままになります。

Runtime Repository と Design Repository 間で整合性を確保するには、配布のコミットが必要になります。実際には、「配布」をクリックしたとき（これによって「コミット」ダイアログ・ボックスが表示されます）と、生成が完了したときに、1 回ずつコミットが実行されます。結果的には、2 回目のコミットによって、生成結果がコミットされます。

生成が実行され、「配布前のランタイム・リポジトリの生成結果」画面が表示されると、生成スクリプトは配布の準備としてランタイム・プラットフォームに渡されます。配布に影響を与えることなく、ユーザーは設計オブジェクトを変更できます（他のクライアントまたは OMB を使用）。

使用例 2

オブジェクトはロックされていません。エディタまたはプロパティ・シートを開きます。オブジェクトがロックされます（他のセッションで UI または OMB を使用してオブジェクトにアクセスしようとする、読取り専用モードになります）。変更は不可能です。エディタまたはプロパティ・シートを閉じます。ロックが解除されます。

使用例 3

多くのオブジェクトでは、構成プロパティが開いていると、暗黙的に検証が実行されます。これによってオブジェクトが変更されますが、構成を閉じてロックは解除されません。ただし、新しく作成されたオブジェクトまたは更新されたオブジェクトでは、検証が実行されます。変更されていないオブジェクトの構成パラメータ・ウィンドウを開くか、または閉じると、ロックが解除されます。

同一の OWB_HOME から同時に複数の Oracle9i Warehouse Builder セッションを実行する際に発生する問題 (Bug#2990726)

Oracle9i Warehouse Builder Client または OMB Plus、あるいは両方から複数のセッションを開始すると、クライアントで切り取り / コピー / 貼付けを実行するとき、または OMB Plus で OMBCOPY OMBMOVE スクリプト・コマンドを使用するときに問題が発生することがあります。これは、現在 Oracle9i Warehouse Builder では、単一のクリップボードしか許可されていないためです。次の問題が発生する可能性があります。

- 他のセッションでクリップボードに書き込みを行っている際に、ユーザーがクリップボードに書き込みしようとする、その操作は失敗します。
- 他のセッションでクリップボードから読取りを行っている際に、ユーザーがクリップボードから読み取ろうとすると、予測不可能な結果になります。操作は完全に失敗するか、部分的にインポートできることもあります。
- 他のセッションでクリップボードに書き込みを行っている際に、ユーザーがクリップボードから読み取ろうとすると、クリップボードから不適切な内容がインポートされることがあります。インポートに成功する可能性は予測できません。

対応策

別のセッションでクリップボードを使用しないでください。1つのセッションでクリップボードの使用を完了してから、別のセッションで使用してください。

新機能

関連コミット

このリリースでは、複数のターゲットを含むマッピングに使用する新しいコミット方法が導入されます。以前のリリースでは、独立したコミットが実行されました。つまり、Oracle9i Warehouse Builder では、他のターゲットに関係なく、各ターゲットがコミットおよびロールバックされていました。このリリースからは、関連コミットも実行されます。つまり、すべてのターゲットをひとまとまりと見なし、ターゲット全体で一様にデータをコミットまたはロールバックします。ソース内の各行が、すべての関連ターゲットに一様に影響を与えるようにするには、関連コミットを使用します。

データベース接続

このリリースでは、パブリック・データベース・リンクを作成して、データベース全体で共有できるようになります。リポジトリの所有者や、CREATE PUBLIC DATABASE LINK 権限を持つ他のユーザーは、パブリック・データベース・リンクを作成できます。

ダイレクト・パーティション交換ロード

以前のリリースでは、ソース・データの追加処理が必要なマッピング用に一時表がデフォルトで作成され、その後パーティションが交換されていました。このような状態は、マッピングにリモート・ソースまたは結合した複数のソースが含まれた場合に発生しました。このリリースでは、一時表を作成する必要はなく、ソースを直接ターゲットに交換できます。マッピングでダイレクト・パーティション交換ロードを使用して、前に実行されたマッピングでロードしたファクト表を即座にパブリッシュします。

フラット・ファイル・サポートの拡張

このリリースでは、フラット・ファイルの次のデータ型がサポートされるようになります。

- **フラット・ファイルの ZONED データ型:** このリリースからは、ゾーン 10 進データを含む固定形式のデータ・ファイルをロードできるようになります。フラット・ファイル・サンプル・ウィザードで、インポートするフラット・ファイルに ZONED データ型を指定します。ZONED データの形式は、10 進数の文字列 (1 バイトに 1 桁) で、最終バイトに記号が含まれています (COBOL では、SIGN TRAILING フィールドになります)。このフィールドの長さは、指定した精度 (桁数) と同じです。小数点以下の桁数であるスケールも指定できます。

- **フラット・ファイルの DECIMAL データ型**: このリリースからは、DECIMAL データを含む固定形式のデータ・ファイルをロードできるようになります。DECIMAL データはバック 10 進形式で、1 桁と記号を含む最終バイトを除いて、1 バイトに 2 桁ずつ含まれています。DECIMAL データ型には、精度とスケールが含まれているので、端数値が示されます。

マッピング・デバッグ

このリリースからは、マッピング・デバッグを使用して、マッピングから生成される PL/SQL コードでデータ・フローとユーザー・エラーを見つけます。

Match-Merge ウィザードと演算子エディタ

以前のリリースでは、データ品質機能を実現するにあたって Oracle9i Warehouse Builder は Oracle Pure Integrate と連携していました。このリリースでは、Oracle Pure Integrate で実現していたデータの品質に関する機能が、Oracle9i Warehouse Builder に組み込まれました。Match-Merge ウィザードと演算子エディタを使用して、レコードの一致とマージに関するビジネス・ルールを定義できます。

メタデータ変更管理

以前のリリースでは、OMB Plus スクリプト・ユーティリティを使用してメタデータ変更管理を実現していました。このリリースからは、Oracle9i Warehouse Builder Client ユーザー・インタフェースで同様の機能を実行できます。メタデータ変更管理によって、メタデータ・オブジェクトのスナップショットを取得したり、バックアップや履歴管理にスナップショットを使用したりできます。ナビゲーション・ツリーの任意のオブジェクトでスナップショットがサポートされます。スナップショットにはオブジェクト自身の情報（表やモジュールなど）や、オブジェクト内のオブジェクト（モジュール内の表など）の情報が格納されます。

複数の Name and Address ソフトウェア・プロバイダ

このリリースからは、動作保証された複数の Name and Address ソフトウェア・プロバイダと Oracle9i Warehouse Builder が連携できるようになります。サード・パーティ・ベンダーに許諾された Name and Address ソフトウェアを Oracle9i Warehouse Builder で使用できます。これによって、プロジェクトに最適な Name and Address プロバイダを選択できるようになります。

Name and Address ウィザードと演算子エディタ

以前のリリースでは、マッピング・キャンバスと演算子の構成プロパティ・シートを使用して、Name and Address 演算子を定義していました。このリリースからは、Name and Address ウィザードまたは演算子エディタを使用できます。

Public API

このリリースでは、Public API が Oracle9i Warehouse Builder に組み込まれました。この Java API を使用すると、アプリケーションから直接 Oracle9i Warehouse Builder メタデータ・プラットフォームにアクセスできます。API にアクセスするには、次のファイルを解凍し、ローカル・マシン上のフォルダに展開します。

```
<owb home directory>/owb/lib/int/pubapi_javadoc.jar
```

ファイル `index.html` をダブルクリックします。API の使用方法については、「Help」リンクを選択します。

API を使用するには、次のディレクトリとライブラリをクライアント・アプリケーションの CLASSPATH に追加します。

```
<owbhome>/owb/lib/int/admin; <owbhome>/owb/lib/int/publicapi.jar;  
<owbhome>/owb/lib/int/owb0.jar; <owbhome>/owb/lib/int/owb1.jar; <owbhome>/owb/lib/int/owb2.jar;  
<owbhome>/owb/lib/int/owb3.jar; <owbhome>/owb/lib/int/owb4.jar; <owbhome>/owb/lib/int/owb5.jar;  
<owbhome>/owb/lib/int/owb6.jar
```

ディレクトリでクライアント・アプリケーションを実行します。

```
<owbhome>/owb/lib/int/admin
```

RAC のサポート

Oracle9i Warehouse Builder では Real Application Clusters (RAC) に対するサポートが拡張されます。このリリースでは、実行時にネット・サービス名を使用できるようになります。これによって、クライアント・ロード・バランシングが可能になります。また、ランタイム・サービスの可用性も拡張されます。たとえば、サービス・インスタンスまたは関連のノードが失敗するか、サービスが停止すると、別のノードにあるランタイム・サービス・インスタンスをかわりに実行できます。Oracle9i Warehouse Builder の Design Repository も RAC 上で使用できますが、このリリースでは RAC の透過的アプリケーション・フェイル・オーバー機能は利用できません。

セキュリティ

このリリースでは、セキュリティ要件に応じて採用するリポジトリ・セキュリティと監査のオプションが拡張されます。拡張されたセキュリティ・オプションは次のとおりです。

- プロアクティブ・セキュリティ: Oracle9i Warehouse Builder では、カスタマイズされた PL/SQL のセキュリティ実装パッケージを Oracle9i Warehouse Builder Repository にプラグインして、ユーザーの組織で定義されたセキュリティ・ルールに応じたアクセス制御をユーザーに提供できます。
- リアクティブ・セキュリティ: Oracle9i Warehouse Builder では、メタデータ履歴に基づいて監査情報を追跡し、このような監査情報によってセキュリティ・ポリシーを決定できます。
- データ管理: Oracle9i Warehouse Builder では、System 管理者ではなく、ユーザーまたはグループがメタデータの一部を所有できます。したがってメタデータの所有権は、メタデータのセキュリティ管理において重要な意味を持ちます。

サード・パーティの設計ツールに対する MITI メタデータ・ブリッジ

サード・パーティの設計ツール (Erwin、Rational Rose、Power Designer などの様々なバージョン) から設計をインポートするには、特定のメタデータ・ソースに対するメタデータ・ブリッジを MITI Web サイト (Metaintegration Technology Inc.、www.metaintegration.net) からダウンロードします。

Oracle9i Warehouse Builder のクライアント・マシンに MITI ソフトウェアをダウンロードしてインストールしたら、サポートされる様々なツールのメニューが Oracle9i Warehouse Builder 転送ウィザードに表示されます。サポートされる製品については、MITI Web サイトで確認してください。

新機能における既知の制限事項

関連コミット

関連コミットが true に設定され、操作モードがセット・ベースから行ベースへのフェイル・オーバーになっていると、マッピングによって不適切な結果が生成される (Bug#2932912、Bug#2936225)

Oracle9i Database Release 2 (9.2.0.3) を使用する場合、関連コミットが true に設定され、操作モードがセット・ベースから行ベースへのフェイル・オーバーになっていると、マッピングによって不適切な結果が生成されます。操作モードが行ベースまたはセット・ベースになっていると、同様のマッピングが成功します。

パーティション交換ロードを使用してマッピングをロードする場合は、関連コミットを無効にする (Bug#2992304)

このリリースでは、パーティション交換ロードと関連コミットを使用するマッピングは失敗する可能性があります。

対応策

関連コミットを無効にします。

フラット・ファイル・サポートの拡張

DECIMAL フィールドを含む固定長のフラット・ファイルをサンプリングしようとする、不適切なエラーが発生する (Bug#3031142)

フラット・ファイル・サンプル・ウィザードを使用して固定長のフラット・ファイルをサンプリングしようとする、検証メッセージ VLD-2839 がレポートされ、フィールド定義が固定長レコードの許容長を超えているという不適切なメッセージが表示されます。フラット・ファイルの最終フィールドが DECIMAL フィールドである場合に、このような状況になります。

DECIMAL 型のフィールドを含むフラット・ファイルをベースにすると、外部表で不適切な結果が生成されることがある (Bug#3031449)

フラット・ファイルの最終フィールドが DECIMAL 型のフィールドであり、そのフラット・ファイルをベースとした外部表を使用すると、不適切な結果が生成されることがあります。OMB Plus スクリプト言語を使用してフラット・ファイルを作成すると、このような状況になります。

対応策

フラット・ファイル・プロパティ・シートを開いて、「構造」タブを選択し、プロパティ・シートを閉じて、外部表を再生成します。

マッピング・デバッグ

最初から最後まで通して実行できない演算子またはマッピングについては、ブレイク・ポイントを設定しない (Bug#2887323、Bug#2981111)

マッピングに複数のターゲットがあり、関連コミットが true に設定されている場合は、ターゲットにブレイク・ポイントを設定できません。最初から最後まで通して実行できない演算子にブレイク・ポイントを設定すると、ブレイク・ポイントが破棄されます。次の演算子にブレイク・ポイントを設定しても無効です。

- シーケンス
- マッピングの入力パラメータ
- マッピングの出力パラメータ
- マップ前プロセス
- マップ後プロセス
- 入力がないプロシージャ
- 出力がないプロシージャ
- 定数

結果の前に、マッピング完了のメッセージが表示される (Bug#2887449)

現在のリリースでは、デバッグによってマッピングが完了したというメッセージが表示され、進捗バーではアクティビティが引き続き表示されます。デバッグの結果はその後表示されます。この動作は正しくありません。デバッグの結果が表示されてから、マッピングが完了したというメッセージが表示されるようにする必要があります。

デバッグによって、定数とマッピングの入力パラメータ演算子用の 2 行が「ウォッチ・ポイント」タブに表示される (Bug#2962621)

このリリースでは、デバッグによって、定数とマッピングの入力パラメータ演算子用の 2 行が「ウォッチ・ポイント」タブに誤って表示されます。

デバッグでアドバンスド・キューがサポートされない (Bug#2979844)

このリリースでは、デバッグでアドバンスド・キューのデバッグがサポートされません。

デバッグによってログ・ファイルが作成される (Bug#2983137)

デバッグによって、<owb home>%owb%bin\admin ディレクトリにログ・ファイル `debugger.log` が作成されます。ログ・ファイルには、マッピングのデバッグ・セッション中に実行された各ステップ、生成コードが含まれます。このファイルが非常に大きくなった場合は、削除してください。

デバッグで、マッピングを編集できる (Bug#2996824、Bug#298161、Bug#2976127、Bug#3020874)

このリリースでは、デバッグによってエラー・メッセージが表示され、デバッグ・モードでマッピングの編集を不正に許可することがあります。デバッグ・セッション中は、マッピングを編集しないでください。

対応策

1. デバッグを停止します。
2. マッピングを編集します。
3. デバッグを再起動します。

「ORA-00972: 識別子が長すぎます。」というメッセージが、オラクル以外のソースのマッピングで表示される (Bug#30126210)

オラクル以外のソースを使用したマッピングについて、間接的なアクセス・モードでマッピング・デバッグを実行すると、エラー ORA-00972 が発生することがあります。31 文字以上の名前データベース・リンクを指定すると、このような状況になります。

対応策

データベース・リンク名を 30 文字以下で指定します。

複数の Name and Address ソフトウェア・プロバイダ

Name and Address コンポーネントの長さフィールドを指定するユーザー (Bug#3003335)

Name and Address の出力コンポーネントの長さフィールドはデフォルトで 0 (ゼロ) に設定されます。Name and Address コンポーネントを適切に処理するには、すべての指定されたコンポーネントに長さフィールドを移入する必要があります。使用可能な長さの値については、Name and Address サービス・プロバイダのドキュメントを参照してください。

セキュリティ

プロジェクトが固定されると、サービスにセキュリティが適用されない (Bug#2661282)

このリリースでは、mdl インポート、mdl エクスポート、生成など、特定のサービス・レベルの操作が、固定されたプロジェクトで無効になります。このような状況を回避するために、別の方法を使用することもできます。

OWB Repository Assistant での一貫性のない動作によって、セキュリティ機能が妨害される可能性があります (Bug#3029007)

OWB Repository Assistant を使用してリポジトリをインストールすると、確認メッセージが表示されずにインストールが完了することがあります。このような場合は、通常のユーザーではなく、リポジトリ所有者として Design Repository に接続できます。これにより、Oracle9i Warehouse Builder のセキュリティ機能が無効になります。

対応策

SQL Plus を使用し、リポジトリ・スキーマで接続します。たとえば、スキーマ名が `owb_repos` の場合は、次の文を発行します。

```
SQL> delete from owb_role_info;
SQL> var out varchar2(100);
SQL> call WBSecurityHelper.initRoleInfo(:out, 'my_pwd', 'OWB_REPOS')
```

`my_pwd` は、Oracle9i Warehouse Builder ロールの保護に使用するパスワードです。

```
SQL> call WBSecurityHelper.updateRolePwd('my_pwd')
```

文字列 `my_pwd` は、前述のパスワードと同じです。

```
SQL> COMMIT;
```

既存の機能における既知の制限事項

ブリッジ

一部のブリッジは UNIX でサポートされない

Discoverer Bridge では、Oracle9i Discoverer Administrator でインポートする EEX ファイルが生成されます。Oracle9i Discoverer Administrator は Microsoft Windows でのみ使用可能です。ERWin Bridge および PowerDesigner Bridge は、Microsoft Windows プラットフォームでのみサポートされます。

Repository Assistant および Runtime Repository Assistant: リポジトリの削除

Repository Assistant または Runtime Repository Assistant でリポジトリを削除すると、Assistant によってすべてのリポジトリ・オブジェクトが削除されます。ただし、データベース・リンクやユーザー配布オブジェクトなど、スキーマによるその他のオブジェクトは削除されず、スキーマそのものも削除されません。これらのオブジェクトについては、手動で削除する必要があります。

インストール後に最初ブリッジを実行できない (Bug#2237444)

最初のユーザー・インタフェース・セッションでブリッジを実行しようとする、`preferences.properties` ファイルが検出されません。

対応策

一度 Oracle9i Warehouse Builder Client を閉じて、再び開き、ブリッジを実行します。

クライアント

プロジェクトで切り取り / コピー / 貼付けを使用できない (Bug#2277487)

切り取り / コピー / 貼付け機能は、現在プロジェクトに使用できません。このような操作は、プロジェクト内に格納されたすべてのオブジェクトを含む設計オブジェクトのみに制限されています。

対応策

プロジェクトを別のリポジトリにコピーするには、メタデータ・インポート・ユーティリティとメタデータ・エクスポート・ユーティリティを使用します。

右クリックによるポップアップ・メニューが表示されない (Bug#1621822、Bug#1766652)

コンソールおよびモジュール・エディタでは、ノードを右クリックしてポップアップ・メニューを表示させる場合、水平方向のウィンドウの縮小とカーソル位置に注意する必要があります。ウィンドウを大幅に縮小させた場合、右クリックはノード・ラベルの左端か右端で行う必要があります。ラベルの中央部で右クリックすると、ポップアップ・メニューが表示されません。また、ウィンドウがポップアップ・メニューより狭いと、メニューは表示されません。

対応策

ウィンドウを水平方向に広げてポップアップ・メニューを表示させます。または、ポップアップ・メニューのかわりにメニュー・バー項目（「変換」、「編集」、「表示」など）を使用します。

ラージ・オブジェクトの改名 (Bug#2048683)

非常にサイズの大きいオブジェクト（たとえば、多くの演算子と属性を持つマッピングなど）の改名には、数分かかります。そのオブジェクトに関するエディタをすべて閉じるとこの時間は短縮できます。

コード内の引用符に囲まれたユーザー名とパスワード (Bug#2089342)

生成コードでは、ユーザー名とパスワードは常に引用符で囲まれています。ユーザーやパスワードの周囲を引用符で囲まないでください。

使用可能なウィザードで演算子を表示して編集する (Bug#2854976)

このリリースでは、Match-Merge 演算子や Name and Address 演算子の表示および編集に、演算子プロパティのダイアログを使用しないでください。ウィザード・エディタを使用してください。

Match-Merge 演算子や Name and Address 演算子を編集するには、マッピング・キャンバスで演算子を右クリックし、「編集」を選択します。「演算子のプロパティ」は選択しないでください。将来的には、ウィザードを持つ演算子で「演算子のプロパティ」ダイアログが使用できなくなります。

大規模なプロジェクトの検証および生成に時間がかかる (Bug#2998887)

非常に大規模なプロジェクトでは、検証結果のフェッチおよび表示に時間がかかることがあります。Oracle9i Warehouse Builder で利用可能なメモリーが十分になく、検証結果をフェッチする際にすべてのオブジェクトをキャッシュ内に維持できない場合は、このような状況になります。

対応策

大規模なプロジェクトの検証や生成に時間がかかる場合は、Oracle9i Warehouse Builder で利用可能なメモリーを増やします。owbclient.bat から Oracle9i Warehouse Builder を起動する場合は、最大メモリーが利用可能な物理メモリーの 80% に設定された Java コマンドを変更します。たとえば、次のように指定します。

```
..¥..¥..¥jdk¥jre¥bin¥java -Xms64M -Xmx512M -Dlimit=512M
```

ご使用のマシンで利用可能な物理メモリーに、この設定を適用できることを確認します。

データベース・リンク

引用符で囲まれた小文字を使用して生成されたデータベース・リンクによって ORA-00942 が発生する (Bug#2720359)

データベース・リンクのモジュール・プロパティを更新し、小文字のユーザー名やパスワード、または小文字 / 大文字混合のユーザー名やパスワードを設定した場合は、生成されるデータベース・リンクに、引用符で囲まれた小文字または小文字 / 大文字混合のユーザー名やパスワードが含まれ、ORA-00942 が発生することがあります。データベース・リンクの構成（または 9.0.4 以上のリリースで

はロケーションの登録)では、データベース・リンクの生成時に入力されたユーザー名とパスワードの小文字 / 大文字の設定が維持されます。したがって、参照されるオブジェクトに適切な小文字 / 大文字の設定を使用する必要があります。たとえば、Oracle では大文字、一部の Oracle 以外のシステムでは小文字 / 大文字混合にします。

デプロイメント・マネージャ

デプロイメント・マネージャでアップグレードの失敗が示されない (Bug#2786899)

デプロイメント・マネージャでは、失敗したアップグレードに対して配布ステータスが誤って表示されます。アップグレードが失敗するか、関連レポートでエラーが示されたためにアップグレードが配布されなくても、「ランタイム・リポジトリの配布結果」ダイアログではアップグレードの成功がレポートされます。

対応策

正しいステータスを取得するには、次のいずれかの操作を行います。

Runtime Audit Browser で配布ステータスを表示します。

または

「ランタイム・リポジトリの配布結果」ダイアログの上端のグリッドで、アップグレードされたオブジェクトを含む行をクリックします。詳細グリッドに、アップグレードに関する詳細な結果メッセージが表示されます。

ORA-12154 TNS の名前エラーを解決できない (Bug#2935974)

オブジェクトの配布時に、エラー・メッセージ ORA-12154 が表示されることがあります。ロケーション登録のダイアログに無効なネット・サービス名を入力すると、このエラーが発生します。現在 Oracle9i Warehouse Builder では、ロケーション登録のダイアログに入力された NetServicesName が検証されません。

ロケーションがローカルでもデータベース・リンクが生成される (Bug#2682262)

一部のケースでは、データベース・リンクが必要とされず、使用されない場合でも、Oracle9i Warehouse Builder によってデータベース・リンクが生成されます。

Runtime Repository 内ではロケーション名を一意にする (Bug#2712901)

ロケーションの識別方法に制限があるため、配布時にエラーが発生します。同一名のロケーションや、他のプロジェクトから以前配布されたロケーションを使用すると、このようなエラーが発生します。

最初にロケーションに配布すると、内部識別子はそのロケーションに登録されます。内部識別子を使用して、Design Repository と Runtime Repository 間で一意にロケーションが識別されます。他のプロジェクトからの同じロケーションを使用して配布しようとする、エラーが発生します。以前使用されたロケーションを含むプロジェクトをインポートして、それを配布時に使用しようとする、このような状況になります。Runtime Repository 内ではすべてのロケーション名を一意にする必要があります。ロケーション名を変更しても、内部識別子に変更されません。したがってロケーション名だけを変更しても、エラーが発生します。

対応策

1. 各プロジェクトで新しいロケーションを作成します。プロジェクト間でロケーションを再使用しないでください。
2. ロケーションの作成時にネーミング規則を使用します。他のロケーション名を複製しないでください。
3. エクスポートしたプロジェクトやインポートしたプロジェクトを使用する場合は、新しいロケーションを作成して、すべてのロケーションを置き換えます。

依存性の処理時に発生したエラーによって、配布が失敗する (Bug#2944626)

アップグレードで選択されたオブジェクトの依存性の処理時にエラーが発生すると、配布は不可能になります。アップグレード・アクションで、名前が変更されたオブジェクトが配布されると、特定の問題が発生します。これによって、影響レポートに示されるエラーが発生し、配布を処理できなくなります。

対応策

次の方法で、オブジェクトを個別にアップグレードします。

1. すべてのディメンションをアップグレードしてから、ディメンションを参照するオブジェクトをアップグレードします。
2. すべてのマテリアライズド・ビューをアップグレードしてから、マテリアライズド・ビューが参照するオブジェクトをアップグレードします。この方法が不可能な場合は、変更されたマテリアライズド・ビューを削除して、マテリアライズド・ビューが参照するオブジェクトをアップグレードしてから、マテリアライズド・ビューを作成します。

Workflow 2.6 のプロセス・フローのロケーションが正しくアップグレードされない (Bug#3027103)

このリリースでは、デプロイメント・マネージャで Workflow 2.6 のプロセス・フローのロケーションが正しくアップグレードされません。

対応策

1. プロセス・フローのロケーションでプロパティ・シートを開きます。
2. 「詳細」タブを選択して、バージョン番号をクリックします。
3. プロパティ・シートで「OK」をクリックします。
4. デプロイメント・マネージャをリフレッシュします。
5. これで、デプロイメント・マネージャで配布アクションを設定し、プロセス・フロー・パッケージを配布できます。

デプロイメント・マネージャで履歴が表示されない - 同一名の 2 つのロケーションがリポジトリ内に存在する (Bug#3027073)

デプロイメント・マネージャでは、1 つのロケーションに対するすべてのオブジェクトが、新規および以前に配布されたことがないものとして誤って表示されることがあります。複数の同一名のロケーションが Design Repository 内にある場合に、このような状況になります。

対応策

ロケーションの名前を 1 つ変更します。

フラット・ファイルのソースとターゲット

大規模な EBCDIC ファイルを使用すると、フラット・ファイル・サンプル・ウィザードがハングアップする (Bug#2327414)

大規模な EBCDIC ファイルのサンプリング中に、フラット・ファイル・サンプル・ウィザードがハングアップすることがあります。これは、現在 Oracle9i Warehouse Builder では、行が <CR> 区切り、キャラクタ・セットが ASCII であるファイルのサンプリングしか想定していないためです。

対応策

代表的なデータのサンプル・ファイル（小規模なもの）をサンプリングしてから、ファイル全体をサンプリングするようにします。

フラット・ファイルと外部表のロケーションのパス指定 (Bug#2803476)

SQL*Loader マッピングを使用して、Windows プラットフォームを参照するフラット・ファイルと外部表のロケーションを定義する場合は、パスの後に次のようなディレクトリ・セパレータを追加します。

```
c:¥temp¥
```

次のようには指定しないでください。

```
c:¥temp
```

マッピングの設計と構成

マテリアライズド・ビューのクエリー・リライト (Bug#1364923)

Oracle9i Warehouse Builder はデフォルトで、各ディメンション・レベルで一意キー制約を作成し、最下位レベルまたはスタンドアロン・レベルのディメンション表に対する一意キー制約を生成します。しかし、一意キーは NULL 値を許可するため、マテリアライズド・ビューのクエリー・リライトで問題が生じます。問合せがマテリアライズド・ビューにリダイレクトされなくなるためです。問題はマテリアライズド・デルタ結合です。この結合はマテリアライズド・ビューで発生し、問合せでは発生しません。廃棄するマテリアライズド・ビュー内の結合に対して、可逆式結合を保証する必要があります。

これには、外部キー関係と外部キー列の NOT NULL 制約を使用します。あるいは、(ディメンション結合キー列に対する) 外部結合とファクト (外部キー列) における結合キー列の NOT NULL 制約を使用することもできます。

対応策

ディメンション表のプロパティを開き、最下位レベルとスタンドアロン・レベルのすべての制約タイプを「主キー」に変更します。

セット・ベースのフェイル・オーバーが複数のターゲットに実行された場合の予測不能な結果 (Bug#1807064)

複数のターゲットが関与する場合、これらのターゲットへのマッピング順序は予測できず、全く同じマッピングでも生成ごとに異なる場合があります。フェイル・オーバー・モードでバッチ・プロシージャが失敗した場合、残りのセット・ベース処理はスキップされます。1つの表に対してマッピングでエラーが発生したが他の表には発生していない場合、セット・ベース・モードや行ベース・モードでマッピングがエラーなしで実行されるかどうかは予測できません。これは次の点で影響を与えます。

- パフォーマンス
- 特定のケースにおいて、セット・ベース・モードで実行されるマッピングが行ベース・モードで実行されない (例: 外部キーを無効にすることが必要な TRUNCATE/INSERT など)

対応策

複数のターゲットを含み、関連コミットが true に設定されたマッピングを実行するとします。『Oracle9i Warehouse Builder ユーザーズ・ガイド』で、関連コミットに関する説明を参照してください。

パラレル行コードが 'true' に設定されていて、アンピボット演算子、完全外部結合を含み、ロード・タイプが TRUNCATE/INSERT であるマッピング (Bug#2696005、Bug#2713647)

ネストされた副問合せがパラメータとして含まれるカーソルに、テーブル・ファンクションが渡され、ネストに 4 レベル以上あり、DATE 型の列に TO_NUMBER 句が含まれる場合、不整合なデータ型によってマッピングが配布されないことがあります。「パラレル行コード」を 'true' に設定すると、このような問題が発生します。

対応策

「パラレル行コード」を 'false' に設定して、前述のような特性のマッピングを生成します。

パラレル行コードが 'true' に設定されていて、ロード・タイプが TRUNCATE/INSERT または INSERT であるマッピング (Bug#2698141、Bug#2706928)

リモート表を参照するカーソルが引数としてテーブル・ファンクションに渡される場合、内部エラーによってテーブル・ファンクションの実行が失敗することがあります。「パラレル行コード」を 'true' に設定すると、このような問題が発生します。

対応策

「パラレル行コード」を 'false' に設定して、前述のような特性のマッピングを生成します。

セット・ベース・モードでスカラー表を返すテーブル・ファンクション演算子を含むマッピング (Bug#2702085、Bug#2708816)

テーブル・ファンクション演算子の出力グループのプロパティ 'スカラー・タイプ' の表を戻します。' が 'true' に設定されている場合、そのテーブル・ファンクション演算子を含むマッピングは ORA-22905 エラーで失敗します。問題は、PL/SQL 変数で仮パラメータとしてコールされる、テーブル・ファンクションに対するスカラー引数にあります。

対応策

前述のような特性のマッピングを作成しないようにします。

INSERT/UPDATE: 異なるモードに異なる行番号 (Bug#2708335、Bug#2711993)

完全外部結合でロード・タイプが INSERT/UPDATE に設定され、セット・ベースのマージとして生成されるマッピングで、不適切な行番号が返されることがあります。

対応策

前述のような特性のマッピングを作成しないようにします。

テーブル・ファンクション演算子を含み、バルクでないマッピングの実行時に問題が発生する (Bug#2711405、Bug#2711518、Bug#2711545)

テーブル・ファンクション演算子を含み、バルク・モードに設定されていないマッピングは、失敗することがあります。特に、テーブル・ファンクション演算子に関連付けられたテーブル・ファンクションにプラグマ自律型トランザクションが含まれる場合に、このような問題が発生します。また、行ベース・モードおよび行ベース・ターゲット・モードでの実行でのみ、問題が発生します。

対応策

フェッチの終了がカーソルに到達する前にコミットが頻繁に実行されないように、コミット頻度を設定します。

2つのテーブル・ファンクション演算子を含むマッピングが連続して実行される (Bug#2711518、Bug#2689214、Bug#2690025)

連続する2つのテーブル・ファンクション演算子を含むマッピングの実行は、ループになります。

対応策

連続するテーブル・ファンクションを使用しないようにします。

ロードと一致に関する制約プロパティが、調整時に更新されない (Bug#2447219)

主キー列プロパティなどの制約プロパティを変更しても、インバウンド調整時にマッピングで更新されません。

対応策

1. 手動でプロパティを設定します。
2. 「制約による一致」で「拡張」ボタンをクリックします。

ターゲットに予測不可能なデータが挿入される: リモート・シノニムから選択してマージする (Bug#2721640、Bug#2721852)

マッピングを2回目に実行すると、結果として数値以外の値が生成されます。マッピングには、結合したリモート表から選択する MERGE 文が含まれます。また、条件別のグループも含まれます。

対応策

問題が発生しなくなるまで、マッピングを単純化します。

パラレル行コードが true となっている行ベースのマッピングが 90 分間実行され、失敗する (Bug#2761711、Bug#2763192)

完全外部結合を含む問合せが、参照カーソル・パラメータとしてテーブル・ファンクションに渡されると、実行時に不適切な行番号がフェッチされます。

対応策

完全外部結合がテーブル・ファンクションの参照カーソル・パラメータとして使用されるようなマッピングは作成しないようにします。

パラレル行コードが生成されないと、検証エラーが発生する (Bug#2761724)

マッピングで「パラレル行コード」が true に設定されているのに、次のような制限によってパラレル行コードが生成されない場合に、Oracle9i Warehouse Builder ではエラー VLD-1127 または VLD-1125 がレポートされます。

- 入力カーソルがリモート・スキーマのオブジェクト (表、ビューなど) を参照する場合。たとえば、リモート・データベース・スキーマの表に対する表演算子を含むマッピングは、パラレルで実行できません。
- テーブル・ファンクションでは入力としてシーケンスを取得できない。
- テーブル・ファンクションではマップ入力変数 (Oracle9i Warehouse Builder でパッケージ変数として実装される) をパラメータとして渡せる。ただし、パラレル実行時には、パッケージ変数はプロセスのローカル変数として見なされます。これは、Oracle Parallel Query エンジンによって、パラレルの各問合せスレーブ (プロセス) で異なるセッションが開始されるためです。セッション全体でパッケージ変数は共有されないため、パラレル・スレーブによって、パッケージ変数の最終値は定義されません (スレーブで書き込まれる場合)。したがって、パッケージ変数は IN OUT パラメータまたは OUT パラメータとしてパラレル化可能なテーブル・ファンクションに渡さないようにします。
- Oracle9i Warehouse Builder では、マッピング入力パラメータを含むマッピングをパラレル化できない。

- Oracle9i Warehouse Builder では、BEFORE 行トリガーまたは AFTER 行トリガーなどのトリガーを持つ表を含むマッピングをパラレル化できない。
- 更新と削除は、パーティション化された表でのみパラレル化できる。更新と削除のパラレル化は、パーティション内またはパーティション化されていない表では不可能です。たとえば、マッピングに、削除 / 更新ロードがある表演算子が含まれる場合、ターゲット表をパーティション化する必要があります。
- 削除カスケードがある外部キーが含まれる表に対する削除はパラレル化されない。

対応策

「パラレル行コード」 オプションを false に設定します。

パラレル・コードではテーブル・ファンクションという Oracle9i Database の機能が使用されるため、次のような状況ではパラレル行コードのマッピング構成オプションを使用できません。

マッピングの成功 / 失敗に関係なく、マッピング後のプロセスが実行される (Bug#2577706、Bug#2797671)

マッピングによって返されるステータスは、次の 3 つの値のいずれかです。

- SUCCESS - エラーなしでマッピングが完了しました。
- WARNING - エラーはありましたが、最大制限を超えることなく、マッピングが完了しました。
- ERROR - マッピングが完了しなかったか、エラーの最大制限を超えています。

エラーの最大数パラメータは、セット・ベース・モード、行ベース・モード、フェイル・オーバー・モードに関わらず、マッピングの全体的な実行に対するエラー・カウントに適用されます。次のケースを考慮してください。

- エラーの最大数が 50 に設定され、マッピングがセット・ベース・モードで実行されます。データは正しくロードされませんでした。セット・ベースの DML 文の失敗により、1 つのエラーが発生しました。マッピングによって返されるステータスは "WARNING" です。
- エラーの最大数が 50 に設定され、マッピングがセット・ベース・モードで実行され、「制約の有効化」プロパティが false に設定されています。データは正しくロードされましたが、制約を再有効化する際に 60 の制約違反エラーが発生しました。マッピングによって返されるステータスは "ERROR" です。
- エラーの最大数が 50 に設定され、マッピングが行ベース・モードで実行されます。一部のデータは正しくロードされましたが、多くのエラーが発生しました。50 個目のエラーの後、マッピングが停止されます。マッピングによって返されるステータスは "ERROR" です。
- エラーの最大数が 50 に設定され、マッピングが、行ベースに対するセット・ベースのフェイル・オーバー・モードで実行されます。データはセット・ベースのプロセスで正しくロードされませんでした。セット・ベースの DML 文の失敗により、1 つのエラーが発生しました。一部のデータは行ベースのプロセスで正しくロードされましたが、多くのエラーが発生しました。セット・ベースで 1 個のエラーがカウントされたため、49 個目のエラーの後、マッピングが停止されます。マッピングによって返されるステータスは "ERROR" です。

3 つのすべてのモードで異なる結果 (Bug#2708357、Bug#2712141)

セット・ベース・モードでは、マッピングに結合演算子、集合演算子、アンピボット、キー参照、スプリッタが含まれる場合に、ターゲットで重複行が表示されることがあります。他のマッピングでも同様の問題が発生します。また、マッピングではデータベース・リンクを介してソース表にアクセスします。ターゲットに多くの重複行が挿入される場合は、ソース・データをまず検証してください。アンピボットになるような特定のデータは、アンピボット・キー列で一意にする必要があります。

対応策

このようなマッピングでは行ベース・モードを使用します。

SQL*Loader マッピングの実行中に一意キー違反が発生するが、結果で問題が報告されない (Bug#2761777)

以前のリリースでは、SQL*Loader マッピングのダイレクト・モードがデフォルトで true に設定されていました。このリリースからは、SQL*Loader マッピングのダイレクト・モードがデフォルトで false に設定されます。ダイレクト・モードを true に設定してパフォーマンスを向上させる場合は、SQL*Loader のドキュメントで、ダイレクト・ロード・オプションに関する制限を確認してください。

「先頭ソースの選択」ダイアログが適切に機能しない (Bug#2859423)

結合演算子を含むマッピングをデバッグする場合、デバッガによって結合の先頭ソースを選択するよう求められます。このリリースでは、先頭ソースを選択しなくても「先頭ソースの選択」ダイアログを取り消すことができます。この動作は正しくありません。先頭ソースを選択する必要があります。

キューブ、ディメンション、マテリアライズド・ビュー、表の新しい名前が、関連するレポートに伝播されない (Bug#2970967、Bug#2970970)

このリリースでは、Oracle9i Warehouse Builder でキューブ、ディメンション、マテリアライズド・ビュー、表の演算子の名前を変更できません。これらのオブジェクトの名前を変更しても、システムレポートと影響分析レポートには新しい名前が伝播されません。

CASE 文または DECODE 文とテーブル・ファンクションを含むマッピングは失敗する (Bug#2974587、Bug#2974597)

テーブル・ファンクション演算子と、CASE 式または DECODE 式の式演算子を含むマッピングを設計すると、マッピングが失敗することがあります。テーブル・ファンクション内の CASE 文は正しく機能しません。

「一意キー」ドロップダウン・リストでデフォルト・レベルの一意キーのみが表示される (Bug#2989450)

Oracle9i Warehouse Builder では、レベルの作成時にディメンション表の一意キーが生成されます。新規キューブ・ウィザードとキューブのプロパティ・シートでは、外部キーを作成して、これらの生成されたディメンションの一意キーを参照できます。また、ディメンション表ではカスタムの一意キーをいくつでも作成できます。これらのカスタムの一意キーを参照する必要がある場合は、キューブのプロパティ・シートを使用します。これには、キューブ・エディタを開いて「ファクト」メニューで「ファクトのプロパティ」をクリックします。「外部キー」タブを選択して、外部キーを作成し、ディメンション表で生成された一意キーまたはカスタムの一意キーを参照するようにします。

ミッドストリームのアドバンスト・キュー演算子を含むマッピングで、パラレルが true に設定されていると、マッピングで不適切な結果が生成される (Bug#2996088)

ミッドストリームのアドバンスト・キュー演算子を含むマッピングで、パラレルが true に設定されていると、マッピングで不適切な結果が生成されることがあります。アドバンスト・キュー演算子がソースでもターゲットでもなく、マッピングで中間演算子となる場合に、ミッドストリームと見なされます。

対応策

ミッドストリームのアドバンスト・キュー演算子を使用するには、パラレル行コードを false に設定します。

Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) でマッピングの実行や配布が失敗する (Bug#3011029)

Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) に適切なパッチを適用していないと、一部のマッピングの実行や配布が失敗することがあります。たとえば、MERGE 文を生成するマッピングが失敗します。

対応策

Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) のインスタンスに Oracle9i Database Server Patch Set Release 9.2.0.3 を適用します。

MDL インポートと MDL エクスポート

スクリプトまたはコマンドライン MDL からの MDL エクスポート

MDL 制御ファイルを作成して、キーワード SUPPORTEDLANGUAGESID を指定し、MDL データ・ファイルに他の (サポートされる) 言語をエクスポートします。たとえば、次のようなワイルドカードによって他のすべての言語がエクスポートされます。

```
SUPPORTEDLANGUAGESID=*
```

特定の言語をエクスポートする場合は (リポジトリに複数のサポート言語が含まれる場合など)、言語の ISO ID を指定します。スペイン語の場合、次のように指定します。

```
SUPPORTEDLANGUAGESID=es_ES
```

MDL 制御ファイルを使用した OMBEXPORT コマンドの例を次に示します。

```
OMBEXPORT TO MDL_FILE 'd:/mdl/exp1.mdl' FROM PROJECT 'MY_PROJECT'  
CONTROL_FILE 'd:/mdl/parameters.ct1' OUTPUT LOG TO 'd:/mdl/exp1.log'
```

OWB Client から他の（サポートされる）言語はエクスポートできません（メタデータ・エクスポート）。

Oracle Enterprise Manager

PERF: OEM のジョブ実行パフォーマンスに関する問題 (Bug#2614173)

OEM を使用してジョブを実行する場合、OEM コンソールに表示される実際のジョブ完了と、(ジョブが完了した) OEM によって通知されるランタイム・プラットフォームの間に、大幅な遅延があります。ジョブが正常に完了しても、50 秒の遅延があります。

対応策

通知まで 1 ~ 2 分お待ちください。

OMB Plus

二重引用符が正規表現で一致しない場合、OMB Plus は例外エラーを返して、ハングアップする (Bug#2778229)

Jacl での既知の問題により、OMB Plus は例外を返して、ハングアップします。文字列の二重引用符が正規表現で一致しない場合、このような状況になります。

OMB Plus では次の例外が返されます。

```
Exception in thread "main" java.lang.StringIndexOutOfBoundsException: String index out of range: -1
```

対応策

スクリプトでは、常に正規表現の二重引用符と一致させます。

OMB Plus でディメンション・スクリプトを生成すると、ディメンション表スクリプトが上書きされる (Bug#2804168)

問題: OMB_COMPILE スクリプトまたは OMB_DEPLOY スクリプトを使用してディメンションのスクリプトを保存すると、ディメンションのスクリプトによって、ディメンションを実装する表のスクリプトが上書きされます。ディメンションと表に同一のファイル名が使用されると、このような状況になります。

対応策

UI を使用して、別のファイル名 (product_table.ddl など) で表スクリプトを保存します。

プロセス・フロー

Oracle8i R8.1.7 のデータベースでプロセス・フローが使用できない

Oracle8i R8.1.7 のデータベースでの制限により、このデータベースでプロセス・フローを配布できません。

プロジェクト間でプロセス・フローをコピーする場合に、貼付けが使用できない (Bug#2803158)

プロセス・フローはコピーできますが、他のプロジェクトにプロセス・フローを貼り付けられません。このリリースでは、プロセス・フローで調整オプションが使用できないためです。

プロセス・フローに、プロセス・フローとして同一名のマッピングまたは外部プロセスが含まれる場合、プロセス・フローがハングアップする (Bug#2823721)

プロセス・フローに、プロセス・フローとして同一名のマッピングまたは外部プロセスが含まれる場合、そのマッピング・アクティビティまたは外部プロセス・アクティビティを実行しようとする、プロセス・フローがハングアップします。

対応策

信頼性が高い配布や実行では、同じランタイム・プラットフォームに配布されるすべてのプロセス・フロー、マッピングおよび外部プロセスに、一意の名前を割り当てます。プロセス・フロー、マッピング、または外部プロセスの名前を変更します。マッピングの名前を変更した場合、プロセス・フローからそのマッピング・アクティビティを削除し、新しい名前でのマッピング・アクティビティを追加します。

Runtime Audit Browser

次のページに、「ネット・サービス名」フィールドが追加されました。

- 「ログイン」 ページ (クライアント)
- 「データベース・リンクの作成」 ページ (Portal)
- 「データベース・リンクの編集」 ページ (Portal)

このフィールドでは、データベースの TNS 名を入力します。TNS 名には `tnsnames.ora` ファイルのサービス名が含まれます。最大 30 文字です。

ホスト名 / ポート番号 / サービス名の組合せ、またはネット・サービス名 / サービス名の組合せを使用して、データベースのロケーションを定義できます。ネット・サービス名は、`tnsnames.ora` ファイルで定義されます。ネット・サービス名は適切な Oracle ホームに定義する必要があります。たとえば、ネット・サービス名によって識別されるロケーションに配布するには、ネット・サービス名をランタイム・プラットフォーム・サービスの Oracle ホームに定義する必要があります。データベース・リンクは、`<サービス名>@<コネクタ名>` の形式で生成されます。グローバル名が `true` に設定されている場合は、ロケーションに指定するサービス名と、リンク先のデータベースのグローバル名が一致する必要があります。

Runtime Audit Browser のレポートから最終ノードを削除しない (Bug#3028355)

Runtime Audit Browser のサービス・ノード・レポートでは、リストの最終ノードを削除しないでください。このリリースでは、リストが空になっていると、「サービス・ノードの追加」ボタンを使用できません。不注意でリストの最終ノードを削除してしまった場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにご連絡ください。

SQL*Loader

SQL*Loader に対するモデル前トリガーとモデル後トリガー (Bug#1524760)

SQL*Loader に対するモデル前トリガーとモデル後トリガーが正常に機能しません。

対応策

マッピング前トリガーまたはマッピング後トリガーで必要としたファンクションの外部プロセスを定義し、OEM または Workflow を使用して SQL*Loader マッピングの前または後に外部プロセスをコールできます。

SQL* Loader 制御ファイルとログ・ファイルの名前とロケーションの構成パラメータ (Bug#2793993)

構成プロパティ・シートで、SQL*Loader 制御ファイルとログ・ファイルの名前とロケーションを指定できます。これらの構成プロパティで指定された値はどこにも適用されず、ランタイムではデフォルト値が使用されます。

アップグレード

Warehouse Upgrade で索引が削除できない (Bug#1477144、Bug#1668554)

Oracle9i Warehouse Builder Repository 内のモデルから索引を削除する場合、Warehouse Upgrade では、データ・ウェアハウスから索引が削除されません。アップグレード・スクリプトは正常に作成および配布されますが、索引はデータベースに残ったままです。

対応策

Oracle9i Warehouse Builder の外部にある別のデータベース・ツール (SQL*Plus または Enterprise Manager など) を使用して索引を削除します。

パーティションの値と Warehouse Upgrade スクリプト (Bug#1811047)

パーティションの値が変更されたり、以前に配布されたパーティションに新しいパーティション・キーが追加されたオブジェクトには、Warehouse Upgrade スクリプトが正しく生成されません。

対応策

外部の Oracle Database ツール (SQL*Plus または Enterprise Manager) を使用して、パーティションをいったん削除して再び作成します。

Oracle9i Warehouse Builder Browser

Oracle9iAS Portal に追加された Oracle9i Warehouse Builder Browser のポートレットを最小化できない (Bug#2429528)

OWB Browser のポートレットは最小化できません。Oracle9i Application Server Release 2 (9.0.2) 以上でのみ、ポートレットを閉じる機能がサポートされます。

系統レポートと影響分析レポートを使用する際の制限

最初の XML ツールキット (バージョン 9.0.1) がインストールされている場合、Oracle9i Database Release 1 (9.0.1) のインスタンスでは系統レポートと影響分析レポートが動作しません。SYS スキーマで、9.0.2 以上のバージョンをインストールします。9.0.2 では問題が発生しません。

Oracle9i Warehouse Builder Repository がデフォルト以外の表領域にインストールされ、EXTENT MANAGEMENT が LOCAL に、SEGMENT SPACE MANAGEMENT が AUTO に設定されている場合、Oracle9i Database Release 1 (9.0.1) のインスタンスでは系統レポートと影響分析レポートが動作しません。Oracle9i Warehouse Builder Repository がデフォルトの表領域にインストールされていれば、レポートは動作します。

Oracle9i Warehouse Builder Browser スキーマを Oracle9i Warehouse Builder Repository インスタンスではなく、iAS インスタンスにインストールします。

XML ツールキット

Oracle8i および Oracle9i Database Release 1 (9.0.1) の制限により、Oracle9i Warehouse Builder XML ツールキットでスタイルシートを適用すると、サーバーの JVM プロセスのメモリーによる制約を受けます。スタイルシートを必要としないか、単純なスタイルシートを使用する XML ファイル (10MB 未満) を使用するよう to してください。文書スプリッタ機能を利用している場合は、これ以上大きい XML ファイルでも処理できます。あるいは、SQL*Loader も使用できます。Oracle9i Database Release 2 (9.2.0) では、XML 機能によって、これらの問題が解消されます。

ドキュメントの正誤表

ありません。

解決済みの問題

Bug#2848011 アドバンスト・キューを含むマッピングで、デバッグがサポートされない

Bug#2882376 フラット・ファイル・ソースを含むマッピングをデバッグすると、Java の例外が発生する

Bug#2894924 ソースとターゲットの両方として使用される表を含むマッピングはデバッグできない

Bug#2899915 マッピングに演算子を追加後、デバッグのために再初期化すると java.lang.NullPointer Exception が発生する

Bug#2903483 自動停止が true に設定されていると、複数の Name and Address マッピングを実行できない

Bug#2896624 SQL* Loader マッピングの配布結果が正しく表示されない

Bug#2709446 制約を含む表の名前を変更すると、表をアップグレードできない - 制約が一意でない

Bug#2872198 ターゲット・ファイルの 2 番目のレコードへのマッピングでエラーが発生する

Bug#2443195 シーケンス・コードの構成ダイアログで、開始値を 7 桁以上にできない

Bug#2552773、2563523 ステージングの必要のないパーティション交換ロードの拡張

Bug#2790711 パーティション・キー割当て時の予測不可能な動作

Bug#2798143 不適切な検証メッセージ、マッピングの変更内容が失われる

Bug#2802888 Expression Builder で、非ブール・コンテキストの後にブール・コンテキストの検証ができない

Bug#2830837、2830726 デバッガで SAP のソース表にアクセスできない

Bug#2876044 文字列値を含むプロセス・フローのユーザー定義属性が、UI を使用して継続されない

Bug#2878439 ユーザー定義プロパティがブラウザに伝播されない

Bug#2889334 Runtime Audit Browser で、選択行が 0 (ゼロ) であるように誤表示される

Bug#2902349 「パラレル行コード」が 'true' に設定されたマッピングが配布されない

Bug#2911829 事前定義されたパブリック変換 WB_OLAP_LOAD_DIMENSION でデータがロードされない